

# シャドーIT行為の心理的要因および対策の検討

## Research on Psychological Factors and Countermeasures for Shadow IT

M1松隈孝志・システム分科会・情報セキュリティ大学院大学

### 1.背景

#### <テレワークの推進>

- コロナ禍によって、企業でのテレワーク導入が急増した。
- テレワーク環境整備が喫緊に求められた結果、セキュリティポリシーやルールの整備が間に合わず、特例としてまたは許可なしで、個人端末やクラウドサービスを業務に利用する組織も多く発生した。(小山ら,2021)(Canon,2021)

|                       |           |           |
|-----------------------|-----------|-----------|
| 個人端末業務利用の経験<br>(過去1年) | ある(37.2%) | ない(56.0%) |
| 個人契約のクラウドサービス利用       | ある(27.3%) | ない(55.3%) |

※Canon調査レポートより引用

#### <シャドーITの増加>

- 組織の管理外(許可なし)で、個人端末やクラウドサービスを業務に利用することを「シャドーIT」といい、情報漏洩など組織に甚大な被害を及ぼしうる。コロナ禍によるテレワーク推進等の結果、シャドーITは59%増加したともいわれる。(Forbes,2022)

#### <シャドーITの対策>

- シャドーITは「①不許可のクラウドサービス利用」「②アプリ開発」「③不許可ソフトのインストール」「④私物端末利用」に4分類でき、特に①④が近年課題である。(Mallmannら,2018)(床波ら,2021)(情報セキュリティ白書2022)
- 不許可のクラウドサービス利用は、技術的な対策として「Webフィルタリング」「CASB」導入によりある程度制御可能だが、完全ではなく、また管理負担などで導入は道半ばの状況(Brouwerら,2021)

### 2.研究目的

- シャドーITの心理的要因の解明および対策の策定

### 3.先行研究

#### <中和技術(組織におけるポリシー違反を助長する一要因)>

- 中和技術は、ISポリシー違反を行う意図の因子の一部であり、組織に対して「社内プロセスに不公平感を持っている」と、その技術を用いて自身の不正行為を正当化する。(Siponenら,2010)(Willisonら,2018)
- 中和技術に対しては、それを緩和(否定)するメッセージを与えることで、ポリシー違反を抑制することができる。(Barlowら,2018)

#### <シャドーITの要因>

- 中和技術「metaphor of the ledger(台帳のメタファー:これまでの自身の「正しい行い」を言い訳に、今回の不正行為を正当化する)」が、シャドーITを行う意図や実行と正の相関がある。羞恥心や組織による制裁(罰)は、相関がない。(Silicら,2017)
- 他者も違反行為をしているという認識が、シャドーITを正当化する(中和技術を使う)ことと正の相関がある。(Haggら,2019)
- 社会的影響によるシャドーIT行為について、チームや上司よりも、Mass(同組織の他部門など)による影響の方が大きい。またその影響は、本人の役職によって変わらない。(Mallmanら,2018)

### 4.今後の予定

#### <実験(アンケート調査)によるシャドーIT対策の検証>

- 先行研究をベースとした実験計画策定
- 実験実施
- 実験結果の分析、考察